

いったん送ったら 全部は取り消せないのが インターネット



ちょっとした言い間違い、書き間違いなどの失敗は誰にでも起きること。でも、それが故意でなければ、誠意をもってお詫びすることで、真意を伝えたり、やり直したりすること、人間関係を修復することはできる。また、いずれ歳月が経てば忘れてもらえることもある…。これまでのそんな常識が通用しないのが、楽しくて便利なインターネットの世界です。

「閲覧」の正体はデータが「コピー」されること

コピー機で複製された写真はオリジナルよりもボヤけます。また、その後も保存しているだけで色あせてくるなど次第に劣化が進みます。ところが、インターネットで使われているデジタルデータの世界では、完全なコピーを何度でも作ることができ、時間が経っても劣化しません。

インターネット上の写真や動画などの「閲覧」は、実際には手元の機器に「コピーを作成」して表示させています。したがって、閲覧された回数分だけ写真や動画などのデータの数も増え、閲覧した複数の情報機器内に残るということです。



取り消せるのは限られた範囲だけ

そのため、いったん公開した写真や動画などを後から取り消そうと思っても、コピーされたデータが既にあちこちに残っていることがほとんどです。コピーされたデータがインターネット上に公開されればともかく、他の人の情報機器内に保管されている場合には、その行方を把握することすら出来ません。

子どもたちは、気軽に写真や動画を公開しています。しかし、そうした「隠れたコピーデータ」が拡散する可能性についても、理解させておく必要があるのです。



ご家庭での対応

不用意に公開した写真や文章の書き込みが取り消せず、後悔する利用者は減りません。特に子どもたちの場合は、自身のブログやタイムラインに不適切な投稿をしても、削除操作で解決すると安易に考えがちです。当事者だけでなく、第三者が閲覧、保存するケースが少なくないことを理解させる必要があります。

また、「公開性」の意識が持ちにくいメールやメッセージでのやり取りでも、仕組みは同様です。そもそも、当事者以外に見られて困るような写真や動画は「撮らない」「撮らせない」ことを家庭でもしっかり伝えることが大切になっています。